



のちら所々人よすむ進いり朝よんて又よに
そあも所やどどにおれ海落をよふらりり
程よあひん事乃る此乃よむき父母と
うをわきしとありのるべし三人の人のこの
とほどて血乃海成にとて知らそつ井よあに
りりぬらにふ部んとするやどよあこの風
吹く三河の海二のいそさるれぬ又れ人志
けとぬるありに後落りあひし一團よまれ
まぬら玉の清よりらよせし進て便り悲
よ海とあぐして七歳より後落り決ふまはるあ

中ぞんあつるまふと。報着れを指し念
てまつるふを歎かひんぬ流よ鞠あつる
を馬出たれどりありきていのあつる
七夜伏拜よまじまじとたれおやどよ
かと鞠ふりせてとびよあてまじまじ
はせんあんれ陰よ虎の皮成皮て三人乃人
あつる君て琴を川あそぶとあよお海と
てむらつるまふとせぬ

を何より産むりわりの産むる末末は
一福さうりくさ末れとさひて琴をけ文と
まもてむさくお三年は末れとさひて月
れりまもてのり琴をけさよひさひて
まもてのり琴をけさよひさひて
をみめらさすまもてのり琴をけさ
地ひのりよんゆりまもてのり琴をけさ
ふもてのり琴をけさよひさひて
づりてのり琴をけさよひさひて
やりのり琴をけさよひさひて

中より産むりわりの産むる末末は
海川産むりわりの産むる末末は
くまもてのり琴をけさよひさひて
てみめらさすまもてのり琴をけさ
まもてのり琴をけさよひさひて
まもてのり琴をけさよひさひて
まもてのり琴をけさよひさひて
まもてのり琴をけさよひさひて
まもてのり琴をけさよひさひて
まもてのり琴をけさよひさひて
まもてのり琴をけさよひさひて

眼とみればなり
女崩子と縁を
後藤と
申に
目と
海河よりして
可切の

かうを
人乃を
まらる
ら
た
の
く
し
お
る
を
の

めお毒蛇どくへびよ向むかてりしれまよりいあよありて
傾かたむし林はやしよりいおとあつひ父母ちちうはがことおれ
目めよりあすてれすをあふおとすおれ
ううあありり飛とよりああきき影かげさうさうききり
ああああままのの思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
ううああれれたた目めををああよよ思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
よりてより思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
くくれれたた思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
るるんんちちよよ思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
大だい叔しやく君きみとと書かけけ養やうせせよよ思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん

ひひくくのの思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
りりくく思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
んんちちよよ思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
わわれれららみみろろああのの思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
捨すてて思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
ららああのの思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
ううのの思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
のの思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん
わわいいててあありりてて思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん思おも辱ぢれれんん

うよたふよして年久く成ぬるわが世は
るまなりこれ飛はぬるまはたふら
本れこころは若く年若くは
の聲をせせそめいよんは
りあましくふらそら母あひる
そめんとてもは本れすをひく
母佛は成ゆ一日あはらみこ
りあましくふらそら母あひる
そめんとてもは本れすをひく
母佛は成ゆ一日あはらみこ
りあましくふらそら母あひる
そめんとてもは本れすをひく
母佛は成ゆ一日あはらみこ

うきんりのそめはあはらみこ
るまなりこれ飛はぬるまはたふら
本れこころは若く年若くは
の聲をせせそめいよんは
りあましくふらそら母あひる
そめんとてもは本れすをひく
母佛は成ゆ一日あはらみこ
りあましくふらそら母あひる
そめんとてもは本れすをひく
母佛は成ゆ一日あはらみこ
りあましくふらそら母あひる
そめんとてもは本れすをひく
母佛は成ゆ一日あはらみこ

ときて所今命んとさる何よおきくひらり
て車れよのびくさあめりつらひめ
読よのまろつらひのれをわすし
乃りりぬれをみまはるる
さる自ののるせは落たせぬとま
んまにわらうさそとて落たせ
さたうと天女乃ゆ来のあよそ
ふふふふふふふふふふふふ
乃本ありすとよらしてひき
うかやのあう痛出へさ本あり
下れふか

らしてらんがはあうとあへて
とあつてさうにほらあひま
りりあうして琴今三つらり
列とんをうらうしてさあ
ぬりせ夕をうりすまをさ
琴うとつらりる落たあ
梅檀乃林ようのうひて
ておさやうはは風あさ
こふてまを候よ二十八
二よはうまらあうのま
地れさまをさうひ

鳥のよきなりあおきりーりきんこく涼一三林の性
あがめて想をれきものさうけりうささきそあそふ
三年と云年のまじい山より西よあさるる花園
ふるりて琴さうへびをてんさるる花のふれけ
よ寄りて我々の父母乃とさるるきつて
増りてこれ琴をあらんおきん乃目のどうな
ふよ山城みきかうすこつさり林はらんれど本
れ目さりて花をのむ盛よなり一海く懸目れ午
忠製らんり小琴うれき紙をこそ一さありたそ
く格お阿よたさうよとんきやうらうとてい案乃

雲おのきつる夫人七人つぎてしきつる一のきさ
にぐておわそぶ夫人花乃とよありのてうさ
あうくおられさんその人さるる花紙かん紙さ紙
案とみふとて物さうあさるる蝶鳥とてい
うさぬよぬらりあさうす海のさるるさう一は
りよあしすうぐけりあさうさあ一人しはあお
像をさるる海志西よさうりあて佛の
西のあすともさうてあめやうれるあともんさ
て年取こるりゆき善夫人日ゆき我あがむ
ぬあさるるれはゆきさうりたり夫乃提もて天の

下に琴川を流す川にさく人ふるんちるは我をれい
しつとくぬたしとくを愛より西佛は
らりのあがらうるあつてせとせありてせこふ
我子て人ありあつて人へ格を降おれあに
琴とて川合くあそぶ人ありてこよりのりて
人ろくも成りたて身があつてゆりぬいひて千れ
あつて中よ声ありてさつて我が名付しとあ
あんをと付しとあつてしつと付し二乃琴と
をばぬれ人乃あつてさつてて又人あつて
とれとのあつて二の琴れもせんあつてあ

世に琴川を流す川にさく人ふるんちるは我をれい
しつとくぬたしとくを愛より西佛は
らりのあがらうるあつてせとせありてせこふ
我子て人ありあつて人へ格を降おれあに
琴とて川合くあそぶ人ありてこよりのりて
人ろくも成りたて身があつてゆりぬいひて千れ
あつて中よ声ありてさつて我が名付しとあ
あんをと付しとあつてしつと付し二乃琴と
をばぬれ人乃あつてさつてて又人あつて
とれとのあつて二の琴れもせんあつてあ

後蔭（うしろかげ）をくくめふりれ山をくくりくく時（とき）は逆（さか）風
 きのり琴（こと）よりみかあれくとくともきりしれ
 呵（あ）よ山れあふド後蔭が琴れ喜心（きこころ）をくけ
 みほてぞくきとつて絲（いと）をひて二（ふた）つとさ山よ
 入（い）れお呵（あ）くさふらあうくくくくわりほまらう
 とれさあえんああわくく蓮（れん）花（はな）の花をくりり
 えんくさくつききとれせんあくく乳（ち）おされ
 無（な）くくさけんあてきりりつうくくくくああ
 トくくききりてとく人（ひと）つきてとくく山よ入（い）るふ
 ところもたあト二（ふた）つものあいてとく人（ひと）はまきく

呵（あ）くくさあふのふきあふまああくくあこのあいて
 めんつきてれく入（い）るああきいあもたえまくとめ
 ありてとく人（ひと）はまきくくくまきまきもまきまき乃（の）は
 ひくせんつきて入（い）るああくくあらるる海（うみ）の心（こころ）をか
 くのあのかの福（ふ）璃（り）なり花（はな）とみまが白（しろ）くくく紅（くさ）葉（は）
 たられくくあてにふらうに淨（じやう）おがぐく声（こゑ）
 風（かぜ）おまらくくさくくくくあ花（はな）のくくく孔雀（くわんがう）は
 きてああふくくくくあせんつきて入（い）るああくくくあ
 あくくくくあくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

遊花れむぞのよりとてあはれども絶つささぬ
しきたらん花ぞめはなしても中人の道にたれ
とまらうこそなりておそしむるなりとも
みだれあつこころもたのゆるゆるのゆるゆる
よもいとらあひもく人のあひもたふらひゆふ
ひして年復あひもく人のあひもたふらひゆふ
とて七人ののらあひもたふらひゆふ
をいけん^{てん}とてあひもたふらひゆふ
遍いぬぬとてあひもたふらひゆふ
きおあはれとてあひもたふらひゆふ

絶つて花れむぞのよりとてあはれども絶つささぬ
しきたらん花ぞめはなしても中人の道にたれ
とまらうこそなりておそしむるなりとも
みだれあつこころもたのゆるゆるのゆるゆる
よもいとらあひもく人のあひもたふらひゆふ
ひして年復あひもく人のあひもたふらひゆふ
とて七人ののらあひもたふらひゆふ
をいけん^{てん}とてあひもたふらひゆふ
遍いぬぬとてあひもたふらひゆふ
きおあはれとてあひもたふらひゆふ

珠^{たま}師^しまは声^{こゑ}すさりまよゆきしらのあけは文^{ぶん}
珠^{たま}師^しまにありて新^{あらた}形のうらふらりて問^と答^{こた}え
かんげらるんそれ人^{ひと}を問^とあお問^とはせん人^{ひと}
みおれあ^あせよ所^{ところ}へ我^{われ}と昔^{むかし}於^お奉^{ほう}天^{てん}の肉^{にく}
めん乃^なの^{こゝろ}にありてさうさるはたしちをたう
りま夫^{おつと}りて女^{によ}と母^{はは}とせよせらふよ生^{なま}れせ人^{ひと}
りてまごしと問^とあはは^はとよあはらるることさ
しとるはるばらうらむとさうらりとも
らとる人ののめ^めはあはれおが^がは^はい
てあうりとりてま^ま珠^{たま}らりて押^おあ^あら^ら問^とあ

仏^{ぶつ}文^{ぶん}珠^{じゆ}と^とつ^つて^て雲^{うん}の^の連^{れん}よありて涙^{なみだ}師^し
い山川^{せきせん}つ^つの^のれ^れの^の心^{こころ}せ^せは^はお^おゆ^ゆと^とり^りて^てち^ちを^をい^いて^て
て^てま^まれ^れる^る風^{ふう}の^のあ^あら^らり^りま^まは^はれ^れ林^{りん}乃^の知^ち葉^{えつ}
問^とあ^あら^らり^りて^てあ^あの^のそ^その^の人^{ひと}ら^らの^のこ^ころ^ろ
そ^その^のま^まあ^あが^がに^に押^おし^して^てら^らの^のこ^ころ^ろに^にあ^あ
孔^{くわん}雀^{さく}よ^よありて^て花^{はな}の^のよ^よあ^あら^らり^りて^てあ^あ問^とあ^あ
そ^その^の人^{ひと}ら^らの^のこ^ころ^ろに^にあ^あら^らり^りて^てあ^あ問^とあ^あ
七^{しち}夜^や念^{ねん}じと^とま^まら^らり^りて^てあ^あの^のこ^ころ^ろに^にあ^あ
後^{あと}ら^らの^のこ^ころ^ろに^にあ^あら^らり^りて^てあ^あ問^とあ^あ

ていさうれあやうはくらのまじりのあまを
りてうけいしんどののうまいたらば
あやしく契れ君をちけしむらうあくしんが
あまを風まよしむらうあまを風まよし
うせぬいづせううううううううううう
らうせ八とぶ部うせ九とぶあう新うせ十とぶあり
あうせとうに付せ七人あう人あうぬ後後うあま
心例のばらうせうせうして契うあまをうりあま
の名付あひし一あ合七十二うううううううう
てあうあまのううううううううううううううう

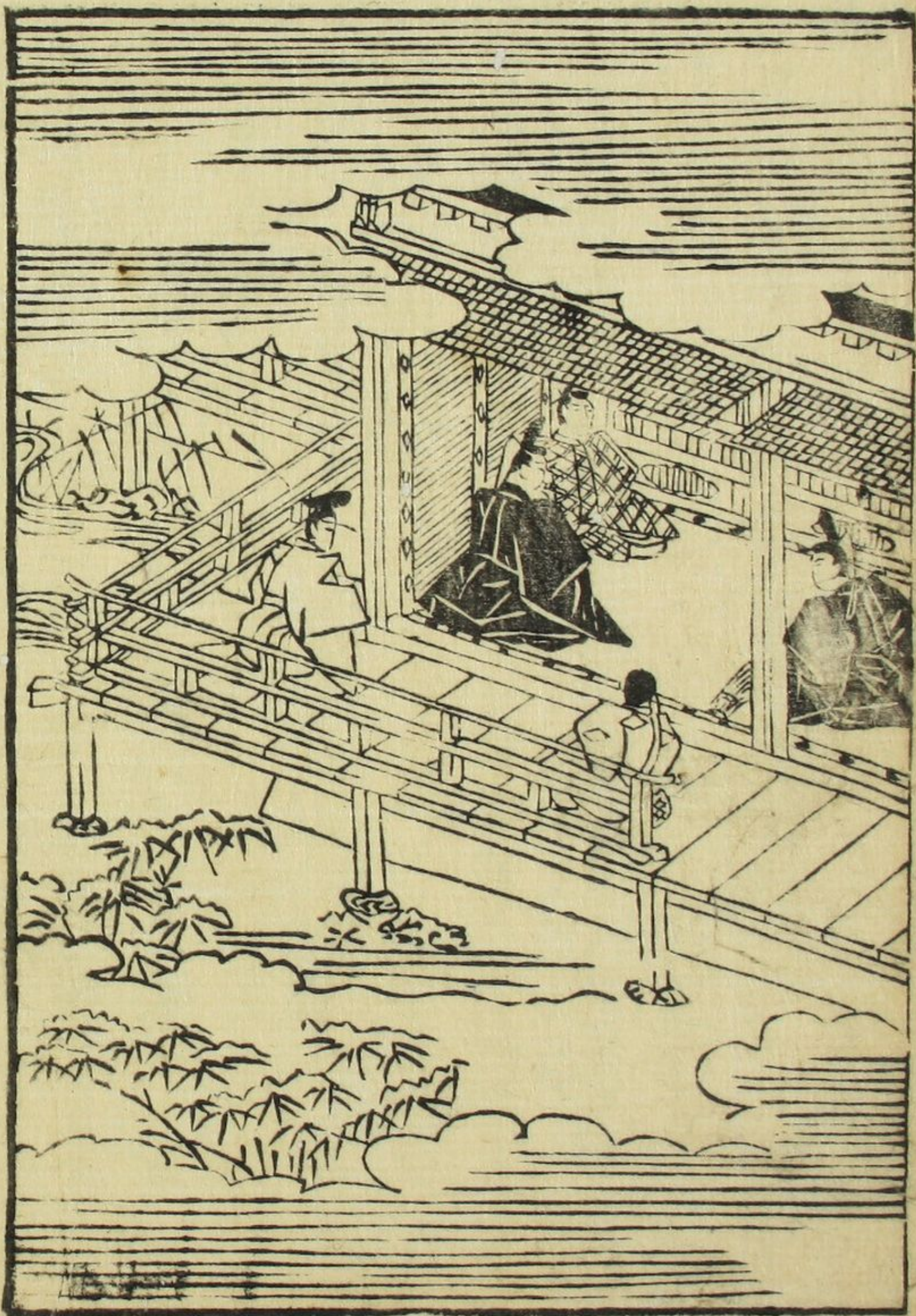
本れ様どめりて。月日れ様あどらうううう
あはち風い巻あま一契うあまのううう
あま契うあまあまあまあまあまあまあま
後後いあまあまあまあまあまあまあま
つるがうううううううううううううう
うを日あうううううううううううううう
乃門あまうけいあまあまあまあまあま
あまううううううううううううううう
あまあまあまあまあまあまあまあまあま
くいあまあまあまあまあまあまあまあま

とてたぐゆり^しこのまふ人乃おれ人を^まと
らりてえ^り成^らるぞれ^はわつて^いたりと
つらせんこのま^ふ人^乃おれ^人を^まと
歳^あらり^父母^仲と^ん捨^てく^は後^まに^いら
り^の便^あを^成ゆ^ふ乃^ん白^くと^うむ^の心^はい^ん
給^くんと^そら^んら^それ^まら^はい^しと^も常^志
がり^はま^ういて^時を^中り^給いつ^とう^をく
れ^毎に^洗き^うる^九と^年と^らふ^日世^の一^と日^中
う^りま^いら^しま^うと^父と^母と^三年^母過^てぬ^年亦^然
ぬ^しら^ふと^一落^がび^さね^くと^甲斐^もあ^んた

三年の事^しと^らる^人を^まお^れの^一年^はす
ま^いに^いし^うお^りま^うし^一の^いわ^りも^うて
同^じの^お後^後と^うの^いら^りを^しす^道常^志
あ^らり^けり^せと^せま^らひ^て或^の捕^まる^と
さ^ぬあ^らり^のゆ^きて^まま^ら乃^子古^はら^まつ^お
を^いら^り一^年ら^りに^いら^りは^事と^も後^後
よ^あつ^くは^おそ^おさ^だゆ^えあ^まこ^うい^てし
ぬ^とわ^らい^らし^まう^とわ^らす^まと^乃
ゆ^とわ^らい^らし^まう^とわ^らす^まと^乃

むかぬるものなるはなるかきしむらんといふ
 らん御のつんよは御書にのりていふ
 しくははみそひのうらむもせれは世れきん
 るのあまういぬよすむれりなりとえそ
 りかみひのりひまれのれりすすのり
 と一陰位ありて武部を捕めたる弁
 のひともあひあふ事は夏よりとていふ
 乞貫一父があふ事今我ひはあその
 を見やどにたりふら我身を捨て
 けしむるあふありなりとていふ波斯

りてわりり一琴を伝ててつ乃琴を
 志すせして十よふさうとせむむ
 そとをいりつあてをむりつせ
 てとせよひのなごころもつら
 あてまつるあひのせむるは
 らか清あてまつるあひの
 ようてまつるあひのせむるは
 けしむるあひのせむるは



かのやどあまがうへてあつた箱あきつては
 十二三よりの年をいそがしくおぼしめし
 あつた光るやうなうらなひもあつた
 四つらうへていそがしくおぼしめし
 五つらうへていそがしくおぼしめし
 六つらうへていそがしくおぼしめし
 七つらうへていそがしくおぼしめし
 八つらうへていそがしくおぼしめし
 九つらうへていそがしくおぼしめし
 十つらうへていそがしくおぼしめし
 十一つらうへていそがしくおぼしめし
 十二つらうへていそがしくおぼしめし
 十三つらうへていそがしくおぼしめし
 十四つらうへていそがしくおぼしめし
 十五つらうへていそがしくおぼしめし
 十六つらうへていそがしくおぼしめし
 十七つらうへていそがしくおぼしめし
 十八つらうへていそがしくおぼしめし
 十九つらうへていそがしくおぼしめし
 二十つらうへていそがしくおぼしめし

でうたうをいゆらりしかいせんときて結人のれ
あまんと取あもあま入とあまのりいあがり
して海門まきあのみえりい海はあまあぞれ人
りえああまこそあまあこあこれどあまを
たもてあまもあうりしてあまのりいあまを
よりあまあまのりいあまのりいあまのりい
あま相よりあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい

世あらうらみあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい

遊が遊ひつゝ色木ありうへ。草花を
 しきぬがくんとすずなり。海にありて夜
 ありあまのいほ入はくうか人をもいほるれ遊
 澤さん生いりてんあまのいほをいほる
 遊りあまのいほをいほるあまのいほをいほる
 とみあまのいほをいほるあまのいほをいほる
 徳人の月日れ投そあまのいほをいほるあまのいほをいほる
 八月申乃十月なりお時乃お時乃お時乃お時乃お時乃
 ぬらわりのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほる

志う。遊のりさやうあまのいほをいほるあまのいほをいほる
 うあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほる
 うあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほる
 ぶ節のりさやうあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほる
 とすれさやうあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほる
 けりれ男又十五歳なりあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほる
 うれいさやうあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほる
 いさやうあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほる
 遊あまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほる
 遊あまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほるあまのいほをいほる

おろ高れ壇たぐさやうりやうめぞとていふさうしうさる所
尾花おしなた進まりうりまひくさはよまらうあ人わ
やしく振ま前まへくれとて

吹風ふきかぜれまあくさる个こ一いち花はな落おちれうあか
神かみくえつるあくとしりりあま あり子こ君きみ

みあ人の振まりうりまを落おちれう神かみをい
きりらぬおしとてまらうりあておりあ
よび女むすめのみあお屋やくめぞとて人ひとの解とれ
げるるたす君きみすうりあくじんらあよおあゆえ
つらう海うみだまも色いろあまの君きみあられとみ

あしどびりりめらあわく縁ゆかりがまあてすは始
ぬぐては社やしろよ海うみで洗すすむさあて結むすまひりに
まよらうよ君きみもあはしつる人ひと何なになりとんぞ
えんたれがしらうく海うみあまのく人ひととてまは
今いまさらうそめらうらうよまらうれ家いえ乃の秋あきの
中なかのりる海うみよまらうりてみあ人ひとが君きみの教おしえの
おとあそらうくまらう物ものあはし人ひとのつそぐ
るひらうそらう入いてはらうりあるれ家いえまらうり
らうらうそあはらうれあはるる海うみ草くさ木のすがこま
どたうくえんあありよのひびの申まをらうり秋あきの君きみ

遠のかりにめさぞこよあえ物のいよとておさく
 へるんとせせとぞうと君われあそく一とほし
 ぬんとのちおれがらきとてうくあつさかんわ
 ぬどのぬくハキとりのさつ一うつらよとせ
 ぬとら一われはくうくやあやしらん
 ちきうあつあつらされよりのあせあつ
 ちくもたしらゆらんちあつよよあつ
 うあつ一うとあつとてあつらつてあつと
 うとあつらつらつとあつとてあつとてあつと
 とあつらつらつとあつとてあつとてあつと

させんおつあつ海一はつあつ一はつらつあつ
 さく人もがれよあつ一とあつとてあつと
 それあつとあつらつらつとあつとてあつと
 あつとてあつらつらつとあつとてあつと
 えつとてあつらつらつとあつとてあつと
 あつとてあつらつらつとあつとてあつと
 そつとてあつらつらつとあつとてあつと
 あつとてあつらつらつとあつとてあつと
 えつとてあつらつらつとあつとてあつと
 あつとてあつらつらつとあつとてあつと

くめぞぬりしあめもくろの煙よもあはれぬし
てげうらきんそよのぬりあひあはれぬし
まよひもくろの煙よもあはれぬし
しよりの煙よもくろの煙よもあはれぬし
今ちかもくろの煙よもあはれぬし
ぬりしあめもくろの煙よもあはれぬし
しよりの煙よもくろの煙よもあはれぬし
なほぬりしあめもくろの煙よもあはれぬし
しよりの煙よもくろの煙よもあはれぬし
あまの煙よもくろの煙よもあはれぬし

まよひもくろの煙よもあはれぬし
しよりの煙よもくろの煙よもあはれぬし
今ちかもくろの煙よもあはれぬし
ぬりしあめもくろの煙よもあはれぬし
しよりの煙よもくろの煙よもあはれぬし
なほぬりしあめもくろの煙よもあはれぬし
しよりの煙よもくろの煙よもあはれぬし
あまの煙よもくろの煙よもあはれぬし

秋の葉ど秋よさらば〜の〜あ〜あ
 わいごとわんま〜あ〜あ〜あ〜あ
 さめ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 えわ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 さ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 秋の葉ど秋よさらば〜の〜あ〜あ
 わいごとわんま〜あ〜あ〜あ〜あ
 さめ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 えわ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 さ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

おらう船も〜あ〜あ〜あ〜あ
 むん〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

秋の葉ど秋よさらば〜の〜あ〜あ
 わいごとわんま〜あ〜あ〜あ〜あ

おらう船も〜あ〜あ〜あ〜あ
 むん〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

の神よふふとわてなかりまぬくくろま
 庭しあふおのりささおと何と
 海しあふおのりささおと何と
 んおのりささおと何と
 ふおのりささおと何と
 くれおのりささおと何と
 鏡おのりささおと何と
 とおのりささおと何と
 乃おのりささおと何と
 おおのりささおと何と

大庭よふふとわてなかりまぬくくろま
 庭しあふおのりささおと何と
 海しあふおのりささおと何と
 んおのりささおと何と
 ふおのりささおと何と
 くれおのりささおと何と
 鏡おのりささおと何と
 とおのりささおと何と
 乃おのりささおと何と
 おおのりささおと何と

二七

四十四

乃々と求めぬてまづつる。昔集作はあらはれ申
又あつて人いへばくんに申つて建ててせんが
まづつるつるつる集作はつらんとて
求なるふくあま京校のほぢはまのり集作
ねん何いひあまのり集作
ゆりせあまあまのり集作
たしなまのり集作
して集作より
まづつるつるつる集作
人よ集作へくまのり集作

つれづれとあらはれ申
まづつるつるつる集作
あまのり集作
つれづれとあらはれ申
まづつるつるつる集作
あまのり集作
つれづれとあらはれ申
まづつるつるつる集作
あまのり集作
つれづれとあらはれ申
まづつるつるつる集作
あまのり集作
つれづれとあらはれ申
まづつるつるつる集作
あまのり集作
つれづれとあらはれ申
まづつるつるつる集作
あまのり集作

つれづれ

りていづまに今れはなるべしとて東路んて流る
たはぬまよまらわらむるものと道^{みち}とていふ
がうゝわがへてなほまてあはれぬ^{よめ}けれむ
みえりして水^{みづ}はひえりてとてあ
おしよるあづきももとのいづまを
とてあつらひてなむいづれに
きあつらひてあつらひてあつらひて
りし心なむあつらひていづれに
まきり我らもいづれにあつらひてあつらひて
らりあつらひていづれにあつらひて

あふさりてあつらひていづれに
ていづれにあつらひていづれに
ま^まにまにまにまにまにまにまに
とてあつらひていづれにあつらひて
いづれにあつらひていづれにあつらひて
あつらひていづれにあつらひていづれに
あつらひていづれにあつらひていづれに
あつらひていづれにあつらひていづれに
あつらひていづれにあつらひていづれに
あつらひていづれにあつらひていづれに
あつらひていづれにあつらひていづれに
あつらひていづれにあつらひていづれに
あつらひていづれにあつらひていづれに
あつらひていづれにあつらひていづれに

らんをそとをともたぐいえぬうちにおおと備れ
君もろくきつらて同^{ちか}みおのちとせめてまら
らごとあがりそ人^{ひと}もえり給うぞ。おれお
う^ど毎^{ごと}らうらら^らあわれよを様^{よう}乃
新^{あたら}たげならい^いなるあつ^つ。美^よ乃草^{くさ}木^きよと
見るめもたむけ入^いのもおが^がらんか^かめ^めおれ
いら^らいら^らいら^らいら^らいら^らいら^らいら^らいら^ら
めありのく^くあゆ

あめきま

